cafe talk_01

ゲスト　佐伯慎亮さん　写真家
後藤哲也さん　デザイナー

表紙制作に関わったクリエイターと、enocoスタッフによるカフェトーク。撮影の感想や、デザインのポイントなどについてお聞きしました。

峯　みなさん撮影お疲れさまでした。今日は高岡さんの案内で館内のちょっとマニアックなポイントを見学しながらの撮影だったんですが、佐伯さん、今回の撮影の感想はどうでしたか？

佐伯　以前「100OSAKA（2012年のenoco企画）」展に参加したんですが、そのときは基本的に昼だったので、暗くなって来たのは今回初めてでした。元々フォトジェニックな場所ではあるんですけど、あらためて夜のライブラリーとかいい雰囲気だったりして、色んな一面が見れてラッキーでした。

峯　私もはじめて、あの暗くて怖い道（表紙写真奥）を見れたので…

佐伯　あそこね！あそこ怖かったけど面白かったですね！

高岡　あれは地下の通気を取るためのドライエリアなんですが、じつは向こう側に通り抜けられたりします。普段は行けないんですけどね。

峯　後藤さん、今回のデザインのコンセプトみたいなものはあるんですか？

後藤　enocoのいいところって、色がついていないところだと思うんです。そんなニュートラルさを出したかったので、写真も事前に決め込まず、ライブ感をもって撮影してくれる佐伯さんに写真をお願いしようと。デザインも、上がってきた写真を見て考えた感じですね（笑）。

佐伯慎亮（さえきしんりょう）
写真家。関西を拠点に作家活動を行っている。09年写真集『挨拶』（赤々舎）刊行。ドキュメンタリー映画の製作など、幅広く活躍。www.saekishinryo.com

後藤哲也（ごとうてつや）
デザイナー。オルタナティブワークスペース「OOO」主宰。バイリンガルアートガイド『FLAG』の発行や、デザインに関する執筆なども行っている。outofoffice.jp

ninOval cafe

enoco地下1階　営業時間：11:00−18:30（月曜日定休）

幸せのパンケーキが、enocoに！！

ninOval cafeでは、中立オーナー監修のもと、enocoで過ごすひとときのため、幸せのパンケーキを新しく導入！ ニュージーランド産のマヌカハニーをふんだんに使ったホイップバターが、あなたを幸せにします。味は、チョコやベリーソース、紅茶ミルク味もあります。食事パンケーキや、こだわり玉子のオムレツも楽しめます。珈琲とともに豊かで、幸せな時間をお過ごしください。

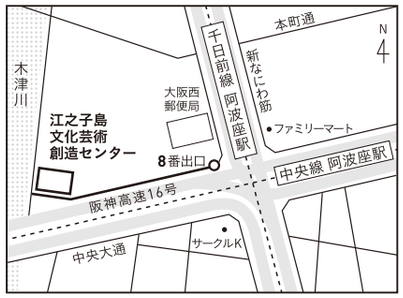
enokojima creates osaka
enoco

大阪府立江之子島文化芸術創造センター［enoco］
Enokojima Art, Culture and Creative Center, Osaka Prefecture

アートやデザインの創造力で、都市を元気にすることを目指し2012年4月にオープン。展示室や多目的室のレンタル事業を行うほか、企画展や公演、セミナー・ワークショップなどを開催し、クリエイティブな人や情報が行き交うプラットフォームとなることを目指しています。

〒550-0006　大阪市西区江之子島2丁目1番34号
開館時間：10:00〜21:00（ただし展示室は11:00〜19:00・日曜日は11:00〜16:00）
月曜・年末年始休館
電話：06-6441-8050｜FAX：06-6441-8151
メール：art@enokojima-art.jp
www.enokojima-art.jp

［アクセス］
大阪市営地下鉄千日前線・中央線「阿波座駅」下車、8番出口から西へ約150m。徒歩約3分。



enocoニュースレター 01
2014年4月発行

｜発行｜ 大阪府立江之子島文化芸術創造センター
｜編集｜ 峯恵子（enoco アートコーディネーター）
｜アートディレクション｜後藤哲也（OOO Projects）
｜デザイン｜後藤哲也（OOO Projects）
｜撮影｜佐伯慎亮（表紙、裏表紙、p.3）
｜イラスト（エノケン、似顔絵）｜ タダユキヒロ

「enocoニュースレター」は、enocoが年4回発行する情報誌。enocoで起こっていることや、enocoにかかわる人々が日々考えていることをお伝えしていきます。

enoco

01号の写真とデザイン

写真　佐伯慎亮
デザイン　後藤哲也

江之子島文化芸術創造センターenocoがお送りする、「enocoニュースレター」。開館3年目を迎え、めでたく創刊です。表紙とロゴは毎号異なる大阪のクリエイターたちが担当します。記念すべき創刊号は、写真家の佐伯慎亮さんとデザイナーの後藤哲也さんのコラボ。館内見学のなにげない写真にあわせ、デザインしていただきました。第2号以降、さまざまな表情を持つ、自由なenocoの空気感を感じていただければと思います。

01

www.enokojima-art.jp

江之子島文化芸術創造センター｜enocoニュースレター｜2014｜01

enocolumn 01　甲賀 雅章　enoco館長

enocoに関わる創造人たちによるリレーコラム。enoco館長の甲賀さんからスタートです。

Be Creative!
僕は、創造人であり続けたい。

Be Creative!　この言葉は、僕がenocoの館長に就任した時に考え、以来、館のタグラインの一つとして使っているが、僕自身、つねにBe Creativeでありたいと願っている。つまり創造的でありたいと思っているわけである。創造的でありたい、これには僕にとっては二つの意味というか、ステージがある。ある課題に対して、創造的に解決したいという思い。この場合は、従来の仕組み、価値感に囚われることなく、新しい切り口、発想で、それまでなかった新しいモノや考え方を作っていくことである。これは、江之子島文化芸術創造センターが果たしていく大きな役割だと思う。地域や社会が抱える問題を創造的に解決していく。そして、それが出来る人材を集積、育成していくことも私たちの使命であると思う。もう一つは、僕自身の生き方における姿勢というか、向き合い方である。年をとればとるほど、知覚ブロックは厚みを増し、思考は固まり、今までの蓄積や概念から逃れられなくなってくる。つまり、Creativeとは真逆の方向に向かう。意識層と無意識層の間にあるフィルターも固形化し、思考と感性の行き来が出来なくなってくる。僕にとって、それは化石化を意味する。Be Creativeであり続けるために僕は、敢えて新しい世界に飛び込むことを自分に課している。まさかの大阪に飛び込んだことも、クラウンをやることも、アートセラピストの資格をとったことも、コンテンポラリーダンスに挑戦することも、Be Creativeであり続けたいという思いからである。新しい世界に触れることは、恐くもあるが実に面白い。精神だけでなく身体も、どんどん覚醒されていく。デザイナー、プロデューサー、社長、カフェのオーナー、ブランディングコンサルタント、色々な肩書きがあるが、僕はきっと創造人を名のりたいのだと思う。HavingやDoingよりも、Beingを大切に生きていきたい。この5月に、初の二人芝居にチャレンジする。さて、どうなることやら。

甲賀雅章（こうがまさあき）
1951年静岡市生まれ。インテリア、ディスプレイ、デザイン・編集会社を経て、1991年株式会社シーアイセンターを設立。広義の意味でのデザイン、文化戦略を、21世紀型経営の最重要資源と考え、企業、組合、商店街、地方自治体等の活性化に取り組む。県や市の公職も多数。1992年から大道芸ワールドカップin静岡のプロデューサー、2012年enoco館長に就任、2013年より大阪国際児童青少年アートフェスティバルのプロデューサーを務める。

次回リレーコラム担当は…
☞　**忽那裕樹**さん（ランドスケープデザイナー）

adidas: Let The Games Begin
ソチオリンピックもすっかり記憶の彼方、すでに2020年の東京オリンピックが待ち遠しい中、歴代のオリンピックで使用されたアディダスのシューズカタログです。しかも社内資料として刊行したレアなやつ。スニーカーマニアの方は一見の価値あり！

Mali Sportovci
スポーツつながりでもう一冊。雰囲気◎のチェコの絵本です。サッカー、スキー、テニス等のスポーツをする子供たち。切り絵のようなタッチで描かれた"らしさ"満点の絵本です。

品墨良行のノート
台北にある「品墨良行[PINMO PURE STORE]」のオリジナルグッズ。日焼けしやすい紙を使った、裁断面むき出しのノートは、使えば使うほどにボロボロになります。究極のシンプルと無骨なルックスを兼ね備えた逸品。

Avedon The Sixties
とにかくこのジャケットにやられました！誌面も華やかになって一石二鳥！写真界の巨匠 "リチャード・アヴェドン" と、ダイアン・アーバスの娘 "ドゥーン・アーバス" とのコラボレーションが実現した、激動の60年代を代表するポートレイト集です。

オン★ザ★レビュー

enoco地下1階の古書店「ON THE BOOKS」米田店長によるブックレビュー。アートブック・写真集・デザイン・建築・ファッションからマンガ・音楽・映画・オカルトまで、多彩なラインナップの中から（店長の）今の気分をあらわす4冊をご紹介します。

ON THE BOOKS　営業時間：11:00ー20:00（月曜日定休）
掲載の書籍は店頭・オンラインストアで販売中　**www.on-the-books.info**

みんなのえのこじま vol.01
田村隆さん
アシタヲデザイン代表
ashitawo-design.jp

大阪のクリエイターに、活動内容と江之子島周辺のお気に入りスポットをシェアしてもらうショートインタビュー。第1回のクリエイターは、グラフィックデザイン事務所「アシタヲデザイン」の田村隆さん。江之子島、最近どんな感じ？

ー簡単に自己紹介をお願いします。

enoco2階のシェアオフィスでグラフィックデザインの事務所を構えています。今年独立して、2月に入居したばかりです。

ーなぜenocoに？シェアオフィスの居心地はどうですか？

まさに運命的に！という感じなんですが、僕自身ファインアートの分野で長く作家活動をしてきて、30歳を過ぎた頃にグラフィックデザインを本業にしたということもあって、アートとデザインの間を縫うような活動ができればと考えてきました。事務所を一歩出ればギャラリーがあって、異分野のクリエイターさんとの接点もあって…という環境は理想的でした。デザイナーだけが集まっているシェアオフィスとは違って、ふつうに暮らしていると出会えないような多彩な方々と机を並べているということも僕にとっては楽しくて、毎日いろんな刺激を受けています。

ー江之子島周辺でお気に入りのスポットなどはできましたか？

いつもだいたい9時半から10時くらいに出勤するんですが、enocoの最寄りである阿波座駅からすぐのところにある「阿波座カフェ」にモーニングを目当てによく行きます。コーヒーだけの値段でトースト、ゆで卵、サラダが付いてくる、いわゆる名古屋式。おトクです。

阿波座カフェ
〒550-0004　大阪府大阪市西区靭本町3-8-14
06-6443-7886
不定休（昨年度の休日は年末年始のみ！）
営業時間：7:00~22:00、日曜日のみ7:00~14:00

エノケンのひとりごと
「江之子島」という地名は、その昔「いぬこじま」と呼ばれていて、それが訛って「えのこじま」となったとも言われてるで。

enocoのこれまで そして、これから

利用者アンケートから見るenoco

高岡伸一　enoco企画部門プランニングディレクター
峯恵子　企画部門アートコーディネーター

この春でめでたく開館2周年を迎えた
enocoこと、江之子島文化芸術創造センター。
美術館？公民館？それとも…？？
利用者のみなさまの声をヒントに、
新人スタッフの峯恵子が、
上司の高岡伸一に、
ひとことでは言い表せない
enocoの活動について、聞きました。

建物の雰囲気が独特

貸しギャラリー利用者の声

峯　関西在住歴わずか半年の私ですが、こちらに来るまで、雰囲気のある近代建築が大阪の都心部にこんなに多いことをほとんど知りませんでした。enocoも改装されてはいますが、外壁の曲線や、階段の手すりのちょっとした部分など、注意深く見てみるとなかなか趣があります。

高岡　大阪の歴史というと、すぐ近世まで遡って豊臣秀吉の大阪城がという話になりますが、実は大正から昭和の初めに「大大阪」といわれて、モダンな建築が数多く建てられた特徴的な時代がありました。今も市内中心部を中心に、近代建築が数多く残っていて、そのレトロな雰囲気を活かしてカフェやレストランとして人気なんです。enocoの建物も、1938年に建てられた工業奨励館をコンバージョン（用途転用）したものです。「江之子島」という地名に馴染みのない方も多いようですが、実はここはかつて本当の島で、明治時代に大阪府庁や市庁舎が設けられたり、川向かいには川口居留地があったりと、大阪の近代都市化においてとても重要なエリアだったんですよ。

峯　そういえば、近所にちょっと洋風な古い建物があったり、歯車や煙突が図案化されたガラスレリーフ（図Ｉ）が館内にひっそりと展示されていたりもしますが、そういう由来があるんですね。

江之子島文化芸術創造センター enoco

（図Ｉ）　歯車や煙突が図案化されたガラスレリーフ

地下のカフェ横のスペースに、歯車や煙突などをモチーフにしたガラスレリーフを飾っていますが、これは元々玄関の欄間にあったもので、大阪府工業奨励館の増築棟として1938年に建てられた、この建物の当時の面影を今に伝えています。

髙岡伸一（たかおか しんいち）
江之子島文化芸術創造センター
企画部門プランニングディレクター
大阪市立大学都市研究プラザ特任講師
／建築家

大阪府出身。専門は建築で、1950〜70年代のビルの魅力を発信するBMCというユニットのメンバーでもあります。この1月にビルの階段ばかりを集めた『いい階段の写真集』を出版しました。

峯恵子（みね けいこ）
江之子島文化芸術創造センター
企画部門アートコーディネーター

長崎県出身。東京と香川で美術館運営や現代美術の作品制作マネジメントなどの仕事に携わったのち、2013年秋から生まれて初めての関西暮らし。まだまだ見るもの聞くもの新しいです。

参加出来るアートが多いし、アートの一部に関われる

ワークショップ参加者の声

峯　大阪府が所蔵している美術コレクションをつかった企画展示や、他館や他施設への作品貸し出しを行っていたり、また大阪府現代美術センターからギャラリーなどの貸し館事業を引き継いで、関西圏で活動される方々の発表の場ともなっていたりするところは、一般的にイメージされる美術館や公共の文化施設の姿に近いのかなと思います。

高岡　enocoでは、コレクションを単に展示するだけではなくて、一般参加で募集した方や子どもたちにキュレーターになっていただいて、自分たちで展覧会を企画・展示してもらうワークショップを開催したり、コレクション展示とパフォーマーや劇団とのコラボレーション企画を考えたりと、従来の美術鑑賞とは異なるプロジェクトに挑戦しています。その他にも、多岐にわたるジャンルで自主事業や共催事業を展開していますので、スタッフはみな大忙しです。

峯　企画する側としての引き出しの多さを求められている気がします。もっと私も色々なことにアンテナを張らなければな、と痛感する日々です。

もっとごちゃごちゃした感じになると良いと思います

イベント参加者の声

峯　2階にはシェアオフィスがあったり、開催される講座の生徒さんたちが自主的に集まってワークショップの準備をしていたり、色々なバックグラウンドの人たちが継続的に出入りしてるなという印象はもともとあります。それに実は、enocoで働き始めてまだ少しの間なのですが、私の社会人生活で過去最速かもしれないというくらいに名刺の減りが早くて、この施設に関わる登場人物の多さが現れているなと勝手に思っています。でもさらに要素を増やしていきたいという方針なんですよね。

高岡　そうですね。enocoでは「創造人」というキーワードを掲げていますが、色んなジャンルの創造人や、創造活動に関心をもつ方々が、常に集い交流するような、大阪の創造拠点になることを目指しています。2階にはいくつかの組織やクリエイターがオフィスを構えていますが、それぞれが刺激し合ったり、一緒にプロジェクトを協働したりといったことが既に起こっていますよね。そんなことがもっと幅広く、連鎖していくようにしたいです。

峯　2012年と13年に、大阪を中心に活躍するクリエイターを紹介する「100OSAKA」という企画展を開催しているのもとても印象的です。アートやデザインを扱いつつも作品ではなくて「人」に注目するというのは、私からすればなんとなくですが大阪っぽい感じがします。

高岡　大阪はクリエイターに限らず、本当にキャラの立った人が多い（笑）。大阪最大の資源は「人」だとよく言われますが、enocoも、もっとたくさんの色んなジャンルの創造人とネットワークを築いて、大阪のクリエイティブシーンの活性化に関われればと思います。100OSAKA展に参加してくれた若手デザイナーに講座のヴィジュアルを担当してもらって、それが賞を取ったりしています。トークイベントへの参加がきっかけで関係が生まれ、そこから新しい仕事が生まれたりと、単にイベントをやって終わりではなくて、そこから新しい何かが生まれるような、そんな機会を提供できる場になっていきたいですね。

ハード的にもソフトも街ににじみ出して欲しい

イベント参加者の声

峯　まちづくり事業が結構メインの位置を占めていたり、まちあるきのイベントや、隣のマンションとの協働で壁画制作のワークショップを開催したりと、前職が美術館勤務だった私からすると、enocoの活動の幅広さというか、良い意味でつかみどころの無さはかなり新鮮に映ります。

高岡　そのあたりがenoco最大の特徴といえると思います。クリエイティビティによって大阪という都市を元気にする、というのがenocoの目的です。例えば私はアートが専門ではなく、建築を専門としていて、大学では都市再生を研究しています。大阪を元気にするためにはenocoに人が集まるだけではなく、enocoが街へと出て行くことが必要です。アーティストやデザイナーと、街づくりや都市計画に関わる人たちがシームレスに連携して、地域や行政と関わりながら、大阪の抱える諸課題を解決していく。例えばenocoのある西区とコラボして、クリエイターが小学校でワークショップをしながら防災の情報発信の仕方をデザインするとか、中之島周辺で定着したアートイベント「大阪カンヴァス」の手法を、郊外都市で展開する「わがまちカンヴァス」を推進したりと、実は館外でも多くのプロジェクトに取り組んでいるんです。館内でも外でも多くのプロジェクトが同時進行していきますので、峯さんも覚悟して下さいね（笑）。

峯　がんばります。ご指導よろしくお願いします（笑）。

アートフォーラム　<こどもとアート>の現場を考える（2014年）

Be Creative festival 2012
セレノグラフィカ「絵を踊る/絵と踊る」（2012年）

オープニングパーティーの様子（2012年）

100 OSAKA vol.1展示風景（2012年）

デザイン：シン
シアター・コミュニケーション・ラボ大阪生徒募集告知ポスター（2013年）
日本広告写真家協会APAアワード・広告作品部門入選、
FCC（福岡コピーライターズクラブ）新人賞

enoco×DECO ふしぎなenoco島をつくろう！（2013年）

創造人を肌で感じるツアー～肌感 hada kan～（2012年～）

まちと津波を知ろうワークショップ（2013年）

4-6月のイベント情報

美術作品へのあなたの感想が演劇になる！？

dracom 祭典2014『gallery(extra version)』

enocoでは、単に展示をするだけではないコレクション活用の新しい形を模索する中で、他ジャンルとのコラボレーションを試みています。今回コラボレーションするのは、大阪・北摂を拠点とし、ユニークな試みに挑み続ける劇団、dracom（ドラカン）。
この秋enocoを会場に上演を予定している演目『gallery』は、美術作品を鑑賞する人々を描いた作品です。今回はdracom初めての試みとして、役者も観客も展示室に入り、本物の作品を使った展覧会と演劇のコラボレーションを試みます。
また公演に先がけ、演出家の筒井潤によるワークショップを開催し、作品のストーリーの創作過程にも参加することができます。
ー
▮ ワークショップ
5月17日（土）、6月14日（土）、7月5日（土）　13:00〜15:00
定員：10名（中学生以上・申込制）
会場：enoco館内
主催：dracom/共催：enoco
ー
▮ 公演
9月26日（金）〜10月3日（金）

若手アーティストの活動をサポートします

enoco [study?] #2公募開始

©Nozomi Tomoeda

「アートの可能性」や「アートが社会に対してひらいていくこと」をenocoとともに考え、実践していくアーティストを公募します。入選アーティストにはenocoの多目的ルームや展示室を一定期間提供し、制作費の一部を支給します。昨年度開催の第1回で選出されたのは、広島県在住の友枝望さん（選出時36歳）。友枝さんが提示したのは近隣の方々のご家庭に眠っている「置物」を収集し、その置物たちを展示するというユニークなプラン。3ヶ月のあいだenocoのある西区に滞在し、ワークショップや公開制作を実施しながら、インスタレーション作品の制作に取り組んでいただきました（プランの詳細、レポートは、enocoホームページにてご覧いただけます）。第2回目となる今回も、たくさんの方からのご応募お待ちしています！
ー
採用人数：1名（応募方法、応募条件等の詳細はウェブサイトをご覧ください。）
2014年6月：公募開始
2014年9月中：選出アーティスト1組決定
2014年10月〜12月（3ヶ月間）：制作期間
2015年1月：成果発表展覧会の開催：enoco館内

コレクション作品を使って、展覧会づくりを体験！

市民キュレーターワークショップ

キュレーターって何？？キュレーターの大切な仕事のひとつに、「展覧会をつくる」という仕事があります。展示室に自分の並べみたい作品を考えて、たくさんの人にメッセージを贈る…そんな体験をしてみませんか？大阪新美術館建設準備室とenocoでは、展覧会を企画する市民キュレーターのワークショップを開催します。参加者には、約7800点におよぶ大阪府 20世紀コレクションの中から作品選定をし、実際に展覧会をつくるプロセスを体験して頂きます。アート大好き！展覧会最高！という方から、「アートには興味があるけど……」という方まで、皆様のご応募お待ちしています。今年の夏は、美術女子（アート）、美術男子（アート）になってみませんか？
ー
｜開講式｜6月21日（土）オリエンテーション　｜中間発表｜7月12日（土）学芸員と2回程度個別打ち合わせ　｜作品展示｜8月17日（日）実際に作品を展示してみる　｜ミニ展覧会｜8月19日（火）〜30日（土）ギャラリートークでプレゼンテーション
定員：5名（18歳以上・申込制）
参加費：無料
会場：enoco
主催：大阪新美術館建設準備室・enoco

FLAG ART EXCHANGE Düsseldorf × OSAKA 帰国展

あなたがほしい i want you

2013年 Weltkunstzimmer（デュッセルドルフ）での展示風景

2013年11月、ドイツ・デュッセルドルフにあるアートセンターWeltkunstzimmerで開催された植松琢麿と林勇気による展覧会「あなたがほしい i want you」の帰国展です。展覧会のコンセプトを記した文章の中には次の様な一節があります。
「精神はネットワーク上で解放されつつあるというのに、肉体は重力を逃れることさえまだ出来ずにいる。この鮮やかな対比。自由で不自由な私たちの欲望を知るために、私たちは私たちの肉体をデュッセルドルフへと輸送することにする。」デュッセルドルフの展覧会で何が起きたのか。あるいは起きなかったのか。そのような視点のもと、デュッセルドルフで発表された二人の作品を全く異なる展示構成によってご紹介します。
ー
6月21日（土）〜7月5日（土）
出品作家：植松琢麿、林勇気
キュレーター：小林公(兵庫県立美術館)
オーガナイザー：後藤哲也(FLAG/OOO projects)
会場：ルーム4
料金：無料
主催：FLAG ART EXCHANGE: Düsseldrf – Osaka 実行委員会 / 共催：enoco

エキシビションカレンダー

くわしくはホームページをご覧ください
http://www.enokojima-art.jp/

4月

8日（火）ー13日（日）　府美協春季展 [ルームⅠ]
15日（火）ー20日（日）　ぎんなん会 (大阪府友会) [ルームⅠ]
22日（火）ー27日（日）　蒼穹会 [ルーム4]
29日（火）ー5月4日（日）第23回土筆会展 [ルーム4]

5月

6日（火）ー11日（日）　原田ゆみ絵画展(B) [ルーム4]
13日（火）ー20日（日）　アートムーブコンクール展2014 [ルーム1, 2]
20日（火）ー25日（日）　京都造形芸術大学大阪クラブOBG会絵画展 [ルームⅠ,2, 3]
27日（火）ー6月1日（日）　小林尉哉　個展 [ルーム2]
27日（火）ー6月1日（日）　モザイク造形「フォルム」第2回展 [ルーム4]

6月

10日（火）ー15日（日）　FOUR展 [ルームⅠ]
10日（火）ー15日（日）　関西一創会展 [ルーム4]
17日（火）ー22日（日）　関西水彩画会会員展 [ルームⅠ]

各イベントの詳細・申し込み方法はホームページをご覧ください。

これまでのイベント

DECO×enoco
江之子島壁画プロジェクト

Vol.1 ふしぎなenoco島をつくろう！
（2013年12月15日）

Vol.2 ふしぎなenoco島のアニメーションをつくろう！
（2014年1月12日）

現在、enocoの北側ではタワーマンションの建設が進んでいます。マンション完成まであと2年、この工事現場を囲う白くて殺風景な万能塀を彩り豊かに！と始まったこのプロジェクト。美術家の井上信太さん、映像作家の海上梓さんを講師に迎え、近隣住民の方とともに動物や植物、建物や道や川など「enoco島」という想像上の町を描きました。ペンキではなく磁石のシートを使って描いているため、金属性の壁にくっつけたりはがしたりも自由自在です。絵をすこしずつ動かしながら写真を撮り、その写真をつなげてカラフルなコマ撮りアニメーションをつくりました。子どもたちの予期せぬ動きから即興でつくりだされた場面も。アニメーションはenocoのwebサイトにてご覧いただけます。

今後、このアニメーションに音楽や物語をつけるワークショップを開催予定。アーティストと江之子島の子どもたちがつくる「ふしぎなenoco島」の物語は、まだまだ続きます！（開催予定は、webサイトにてお知らせいたします。）

enocoワークショップ・ラボ
美術品梱包講座

（2014年1月25日、26日）

2日間にわたって開催された美術品梱包講座。今回は、ふだん美術品の梱包・輸送を実際に手掛けておられる専門会社の方々を講師としてお招きしました。1日目は絵画作品などの平面作品、2日目は彫刻や陶芸などの立体作品の梱包の仕方について、実践を交えながらの具体的な授業に、参加者の皆さんも興味津々。梱包する素材の紹介から始まり、素材どうしの相性、梱包の仕方、ほどけにくい紐の結び方など、美術品の取り扱いについての基本的な知識から、重要なコツ、さらに日常生活に役立ちそうなことまで、一口に梱包といっても、さすがに奥深いです。

時おり冗談を飛ばしつつも、講師の方々の手つきはまさに職人技。特に印象に残ったのは、講座の中で何気なく出てきたコメントでした。「大事な部分や壊れやすい部分は、丁寧に特別感が出るように包むんです。後で開ける人が気づくように。」作品への丁寧な配慮や、次に梱包を解く人への細やかな気遣いこそ、まさに「プロの仕事」といったところ。

美術作品の梱包に注目するという、今までありそうでなかった今回のワークショップ。「自己流でやってきたけれど、きちんと教えてもらえてよかった！」と大好評のうちに終了しました。

都市魅力やまちづくりをサポートするサポーター育成・活用事業
プラットフォームサポーター養成講座

（2014年1月25日、2月16日）

enocoでは、公共空間の利活用、地域の活性化、街づくりなど、単独の部局だけでは解決が困難な複合的な行政課題に対して、アーティストやデザイナー、府民、専門家などの多様な立場の組織や人が、"プラットフォーム"を形成し、行政主導ではなく、対等な立場で交流・対話を行い、アートやデザイン等をツールとして、解決策を検討し提案する官民共同の体制づくりを支援する「プラットフォーム形成支援事業」を進めています。

アート
デザイン

×

公共空間	木津川遊歩空間整備
医療	府立母子保健総合医療センター ホスピタル・アート・プロジェクト
防災	河川の総合的防災対策支援
市民協働	都市魅力やまちづくりをサポートするサポーター育成・活用事業
ものづくり	地域の魅力向上支援事業
福祉	障がい者アーティスト自立支援
地域	おおさかカンヴァス推進事業の水平展開プロジェクト
大学	大学と行政をつなぐ連携事業
周知	事業の内容や成果の周知・定着（シンポジウム）

"都市魅力やまちづくりをサポートするサポーター育成・活用事業"では、プラットフォームのサポーターとして活動して頂くため、養成講座を2回行いました。今回はその内容を紹介します。

第1回　「楽しみながら関わる」

上記の事業を一緒に盛り上げてくれるボランティアサポーターを育成する事業として、養成講座を2回にわたって開催しました。
第1回は、つれづれ団団長の桃生和成さんをゲストに迎え、"おもしろい、たのしい「街」との関わり方"についてお話し頂きました。そして、参加したみなさんは、普段つれづれ団の団員のみなさんが企画出しのために行っている「妄想会議」を体験。参加されたみなさんは、普段過ごしているなかで、いかに「街」に楽しく関わることができるかのポイントをレクチャーしてもらい、様々な妄想が飛び交いました。

第2回　「相手の気持ちになってみる」

そして、第２回は、まちづクリエイティブ代表の寺井元一さんの"あなたの「たのしい」で街を魅力的にする方法"についてです。この回では、6人程度のグループをつくり、各グループで、行政、民間企業、地域住民、ボランティア、市民団体、アーティスト、学校の配役を決め、「できる」「したい」「すべき」を整理したカードを渡し、各主体がその設定を頭に入れながら、各主体になりきって話し合いを進めていってもらいました。そして、その関係性や主張している内容などを各グループでまとめてもらいました。
配役や主張する内容によっては立場がつらいものもあり、その立場にならないと分からなかったものが、少しはその気持ちが分かったりし、得るものがあったと思います。

この講座に参加された方たちは、この養成講座を経て、今後、プラットフォーム形成支援事業のサポーターとして、社会の課題をアートやデザインの力で解決する新しい試みを一緒に盛り上げていってもらいます。